

第二七期中間

二〇一四年四月一日～九月三〇日

事業報告書

株式会社クレス



東京証券取引所 市場第一部
証券コード 四六七四

株主のみなさまには日頃から格別のご支援をいただきまして、お礼申し上げます。

当期の基本方針

次世代クレスコの推進と収益力向上 信頼と成長

クレスコグループは2011年4月から5ヶ年計画で、次のステージへの挑戦と成長をテーマとした「次世代クレスコ」を経営の中核に据えて、事業を展開しています。企業価値を向上させるためには「収益性の向上」が先決と考え、営業体制の強化をはじめ、品質・技術力の向上や原価管理を含めたコストコントロールに、特に注力しています。

当期は「次世代クレスコ」の4年目として、仕上げの段階を迎えました。ここで、いま一度原点に戻り、「信頼と成長」を重点テーマに掲げて、お客様や株主・投資家様を含めたステークホルダーのみなさまのご期待にしっかりと応えできるように、信頼の獲得と社員・組織の成長を目指しています。

次世代クレスコ

1. 中堅IT企業トップリーグ入り
2. 現事業での卓越性
3. オリジナル製品およびサービスの開拓
4. ユニークな子会社群による複合IT企業
5. 営業拠点の広域化
6. 海外進出
7. 技術研究所設立
8. 女性が活躍できる職場
9. 人材育成のモデル企業
10. クレスコブランドの浸透

当中間期の経営環境と業績

消費税増税後の4月以降、駆け込み需要の反動がみられましたが、景況感が高水準を維持しています。企業のIT投資は、受注ソフトウェアやシステムインテグレーション、ソフトウェアプロダクツをはじめ、概ね増加傾向です。投資目的も「売上拡大」や「顧客サービスの質的向上」とするビジネス指向が定着したようで、第3プラットフォームといわれる「クラウド、モビリティ、ビッグデータ、ソーシャル技術」をベースとしたニーズが増加しました。

当中間期の連結業績は、売上高119億99百万円、営業利益9億69百万円、経常利益10億80百万円、純利益7億73百万円の増収増益になりました。前年同期比で、売上高15億69百万円の増収、営業利益3億93百万円の増益、経常利益3億72百万円の増益、純利益3億34百万円の増益です。

重点施策

当期は「技術と品質のクレスコ」の推進と「技術研究所」の強化「組込み関連事業の再構築と新ビジネスモデルの創出」「企業間連携強化による収益性の改善と企業価値の増大」「開発体制の整備と強化」「クラウド関連ソリューションの拡販」の5つを重点施策としています。

まず、「技術と品質のクレスコ」の推進と「技術研究所」の強化として、「技術研究所」の予算を倍増しました。お客様との共同研究を含め、積極的な投資を実施しています。研究の成果はソリューション化して、新たな事業展開の推進へ繋げていきます。

次に、「組込み関連事業の再構築と新ビジネスモデルの創出」として、Bluetooth、RFID、NFCといった近距離無線通信技術を取入れたソリューションの開発を、クレスコグループとして進めています。また、コンサルティングから開発テストまでの幅広い需要が見込まれている機能安全関連は、引き続き拡大を狙っています。

「企業間連携強化による収益性の改善と企業価値の増大」として、経営の安定化と継続的な成長を実現できるよう、クレスコグループ間で協業して、新しいソリューションの開発やクロス営業の強化を図っています。同時に、高度なスキルを持つ人材の育成や確保にも注力しています。

「開発体制の整備と強化」として、「北海道開発センター」や子会社の「クレスコ九州」「クレスコ北陸」を活用したニアショア開発（地方分散開発体制）や、海外子会社の「クレスコ上海^[※]」を活用したオフショア開発（海外開発体制）を推進しています。なお、ベトナムへの進出は検討中です。

最後に、「クラウド関連ソリューションの拡販」として、「インテリジェントフォルダ」「クレアージュ」「モビック」などの第3プラットフォームを取入れたソリューションの拡販に取組んでいます。

当期の取組み

コア技術の「アプリケーション開発技術」「IT基盤システム構築技術」「組込み技術」で屋台骨を支えながら、新しいビジネスを創出していくというのが基本構想です。その構想のもとで、収益性向上、人材育成、組織力強



代表取締役社長
根元 浩幸

化に取り組んでいます。特に、受託開発が中心のビジネス系「ソフトウェア開発」と「組み込み開発」は、技術および品質面の更なる強化を図り、また、先進のテクノロジーを駆使して、事業機会を創出して企業の成長を促す、顧客支援のソリューションサービスを充実させます。

今後の見通し

各種経済動向調査を見ると、消費税増税後の日本の経済は、経済対策に伴う官公庁需要の下支えや民間需要の持ち直しにより、再び回復傾向になり、企業心理や先行き景況感にも明るさが出ています。超円安、労働力人口の減少、アジア情勢不安、原油価格高騰などの懸念は多々ありますが、内需、外需とも概ね良好ですので、景気拡大は当面継続するものと考えています。また、2014年度のソフトウェア投資額は、日銀短観を見ると、企業規模に濃淡はあるものの増加傾向です。

このような状況から、今後の国内企業のIT投資は、安倍政権による新成長戦略や企業業績の好転により、更に活性化するでしょう。特に、スマートフォンやタブレットPC等のモバイル端末やクラウド環境を利活用したシステム開発、システム基盤の統合・再構築、ビッグデータの活用、近距離無線通信など、第3プラットフォームに関連する市場で更なる成長が見込まれます。

クレスコグループがご提供するサービスは、お客様の経営課題の解決と事業戦略の実現を支える、重要かつ不可欠な道具（ツール）になると確信しています。今後も企業の「メインITソリューション・パートナー」として、ビジネスの変革に貢献してまいります。株主のみならずには、引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。

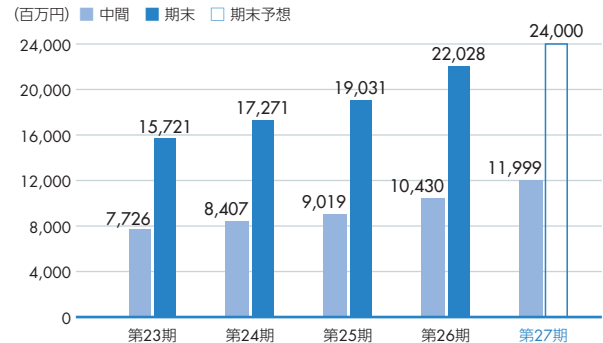
※ 正式名称「科礼斯軟件(上海)有限公司」

決算のポイント

- ◆前年同期比、売上高15.0%増、営業利益68.3%増、経常利益52.6%増、当期純利益76.2%増の増収増益
- ◆クレスコ単体の業績は、主力のソフトウェア開発事業で全般的に受注が増加、組み込み型ソフトウェア開発事業では国内メーカー向けのカーエレクトロニクス関連の開発が順調に推移
- ◆子会社各社の業績は、特にクリエイティブジャパンが売上、利益ともに伸長
- ◆通期業績予想と年間配当予想をそれぞれ上方修正

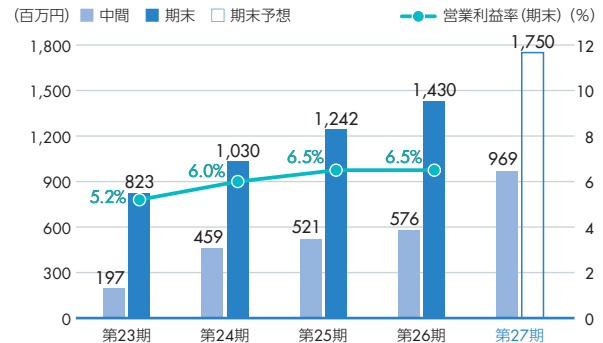
売上高

119億99百万円



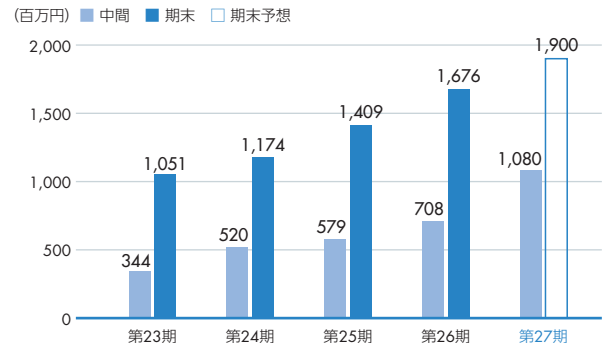
営業利益・営業利益率

9億69百万円



経常利益

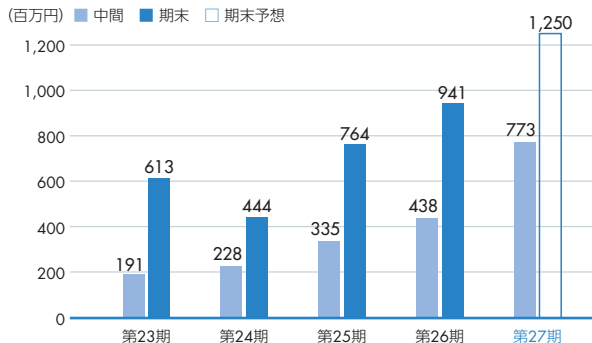
10億80百万円



連結業績ハイライト

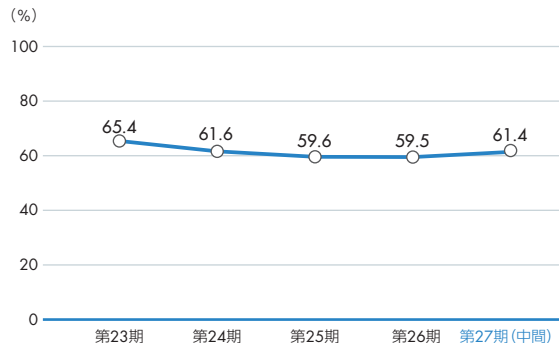
純利益

7億73百万円



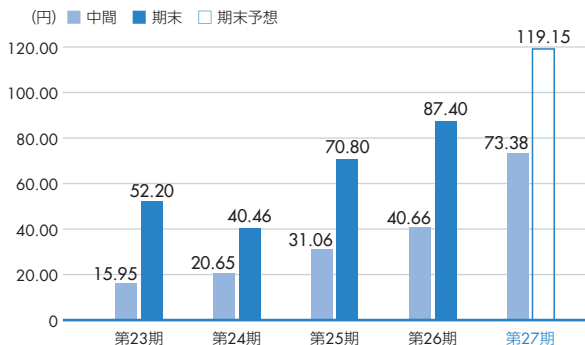
自己資本比率

61.4%



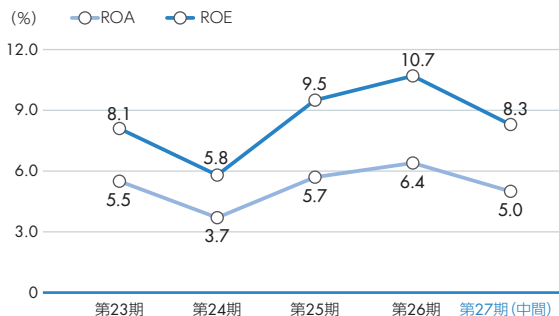
1株当たり純利益

73.38円



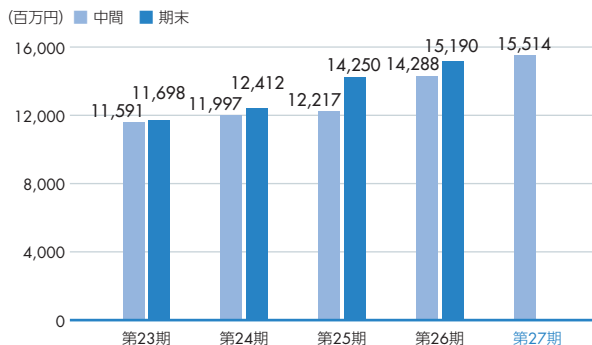
ROA & ROE

ROA 5.0%
ROE 8.3%



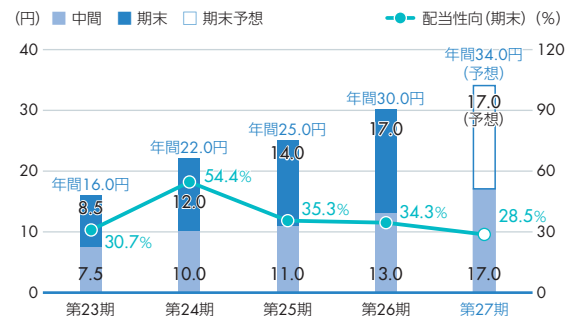
総資産

155億14百万円



1株配当金・配当性向

17.0円

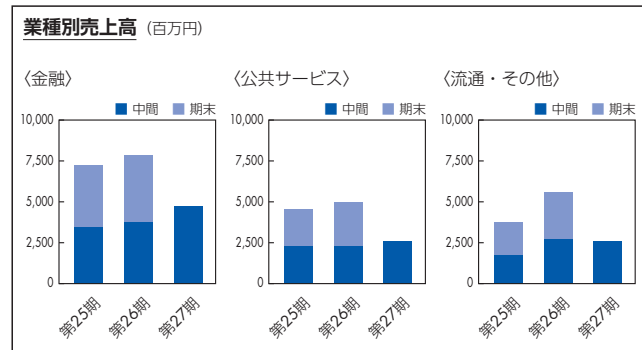
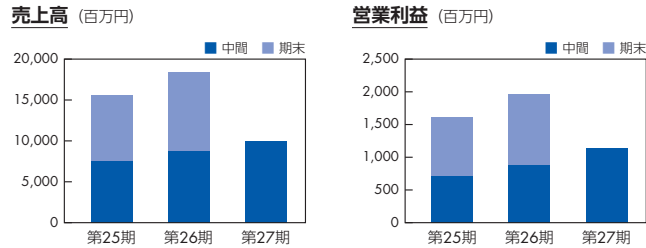
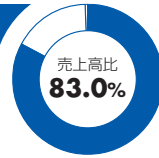


連結業績ハイライト

セグメント別概況

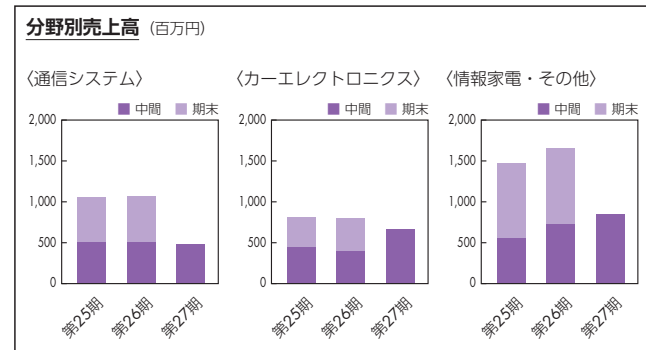
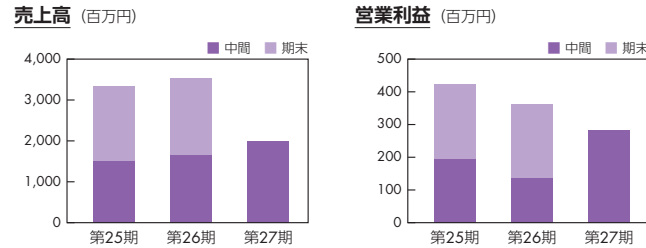
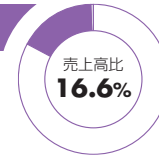
ソフトウェア開発

売上高 **99億56百万円**
営業利益 **11億40百万円**



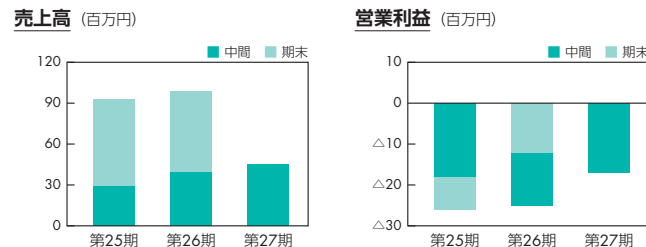
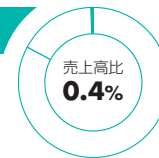
組み込み型ソフトウェア開発

売上高 **19億97百万円**
営業利益 **2億83百万円**



商品・製品販売

売上高 **45百万円**
営業利益 **▲17百万円**



配当方針

当社は、株主のみなさまに対する利益還元を経営の重要課題と位置付けており、株主資本の充実と長期的な安定収益力を維持するとともに、業績に裏付けられた適正な利益配分を継続することを基本方針としております。配当に関しましては、原則当社の経常利益をもとに特別損益を零(ゼロ)とした場合に算出される当期純利益の40%相当を目的に、継続的に実現することを目指してまいります。



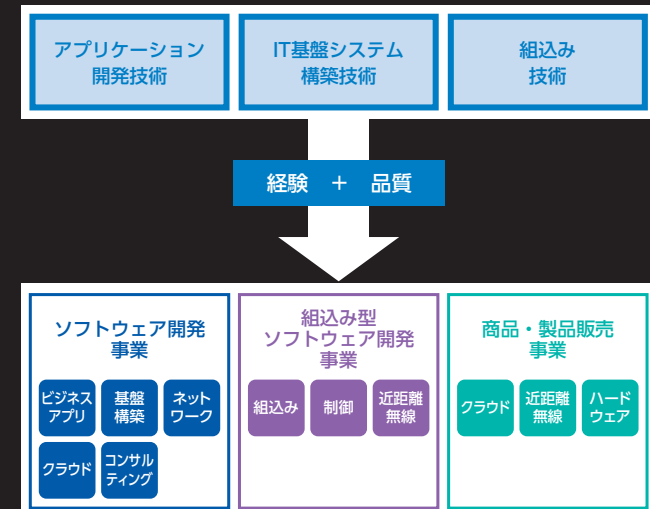
クレスコは、今まで「匠」としてアプリケーション開発技術、IT基盤システム構築技術、組み込み技術の3つの領域にわたるコア技術をビジネスの主軸にしなが、さまざまな仕組みづくりを手がけてまいりました。

特にITの基本部分を支えている

IT基盤システム構築技術や組み込み技術においては、創業以前とクレスコの創業年である1988年以降とを合わせると40年近く。

他社の追従を許さない技術の蓄積があります。品質に対するこだわり。そして、現場尊重主義。

「匠」の精神で、お客様の信頼に応え続けてまいります。



SAP基幹業務のモバイル化を実現する「モビック」

SAP基幹業務のモバイル化を、迅速(Quick)に実現するモバイルソリューション「モビック(Mobick)」



のご提供を開始しました。HTML5のフレームワーク「SAPUI5」を採用することでマルチデバイスに対応し、SAPの主力製品「SAP® Business Suite」に対応しております。モバイル端末の活用でリアルタイム経営を支援し、基幹業務を幅広く、強力にサポートいたします。

例えば、製造業等の倉庫内における製品の入・出荷や棚卸等の業務では、専用ハンディターミナルシステムから汎用タブレットを利用したモバイルシステムに変更することで、業務が機動的になり、生産性が格段に向上します。また、営業部門においては、外出先や移動中にモバイル端末を活用することで、営業日報作成やワークフローの承認、顧客訪問前に取引情報をチェックできるようになり、利便性が向上します。

「モビック」は、「SAP AWARD OF EXCELLENCE 2014」のSAP戦略ソリューション部門において、「SAP® CRMオン・モバイル・ソリューション・アワード」を受賞したソリューション「クレアージュ for SAP Mobile」をベースに、開発いたしました。

「技術研究所」の成果

「次世代クレスコ」の一環として2012年4月に新設した「技術研究所」は、今年で3年目を迎えました。クレスコグループの各事業に必要な新技術や応用研究をするために、お客様のビジネスニーズをもとに、お客様と一緒に先端技術の共同研究を進めることで、技術部品(知財)を作り上げるプロセスを確立し、研究結果をサービス化・ソリューション化しております。

これまでに、Amazonコンサルティングパートナーへの登録、クラウドサービス「クレアージュ(Creage)」のラインアップサービスの発表、SAP基幹業務のモバイル化を実現する「モビック(Mobick)」の発表と着実に成果を出しており、今年度は近距離無線通信技術、フロント技術、クラウド技術の研究に取り組んでおります。今後の成果にご期待ください。



子会社「クリエイティブジャパン」が増資

2014年7月10日付で、子会社「クリエイティブジャパン」が3,000万円から1億円に増資しました。同社はネットワーク、ソフトウェア、サーバーの各ソリューションを主力事業とし、2013年4月1日付でクレスコグループに子会社として加わりました。以降、確実に事業基盤を拡大しております。事業規模に応じた自己資本の増強により、財務基盤を強化し、将来に向けて更なる事業拡大を図ります。



技術者の育成

「次世代クレスコ」の一環として、高い専門性を持つ人材育成に取り組んでおります。

◆Android技術者の育成を推進

OESFエデュケーションコンソーシアムが実施しているAndroid技術者認定試験「ACE」に、有資格企業として最多の29名の社員が合格(2014年9月30日時点)しております。

「ACE」は、Androidの技術者スキルを客観的に評価できる基準として世界160か国で配信されている試験で、「アプリケーション技術者試験」「プラットフォーム技術者試験」の2つが用意されています。

◆技術専門サイトに当社社員が寄稿

HTML5技術専門サイト「HTML5 Experts.jp」に掲載されている連載「エンタープライズ開発特集」に、当社社員の小川 充が「実例から考える、HTML5時代のエンタープライズ・アーキテクチャ」を寄稿いたしました。

「HTML5 Experts.jp」は、2013年7月にNTTコミュニケーションズ株式会社様が、次世代Webブラウザの標準仕様であるHTML5を中心に、最先端のWeb技術の普及促進と、HTML5を活用した新たなITサービスの開発推進を目的に開設した日本初のHTML5技術専門サイトです。国内外で活躍するWeb技術専門家が執筆したHTML5を中心とする最新技術の動向や活用方法の解説、Web業界の著名人のインタビュー、事例やイベントの紹介などを公開しています。

【当社社員の寄稿ページ】：<http://html5experts.jp/mitsuruog/9518/>

サイバーレスキュー隊に「クリエイティブジャパン」の社員が選出

独立行政法人の情報処理推進機構(IPA)が2014年7月16日に発足させたサイバーレスキュー隊「J-CRAT(ジェイクラート: Cyber Rescue and Advice Team against targeted attack of Japan)」に、子会社「クリエイティブジャパン」の社員3名がネットワークとセキュリティの専門家として選ばれました。

「J-CRAT」は12名の隊員で構成され、標的型サイバー攻撃(標的型攻撃)を受けた企業や組織を支援することを目的に、「攻撃に気付いた組織に対する被害拡大と再発の抑止・低減」「標的型攻撃による誤報活動などの連鎖の遮断」を活動の中心として、「攻撃の期間・内容、感染範囲、想定被害等、攻撃および被害の把握と深刻度の助言」「民間セキュリティ事業者への移行を前提とした対策着手のための助言」を行います。

「クリエイティブジャパン」は、ネットワークシステムの設計構築、IT基盤構築を強みとしており、ネットワークとセキュリティのスペシャリストが多数在籍しております。

高速クラウド支援サービスでSkeed社と戦略的技術提携

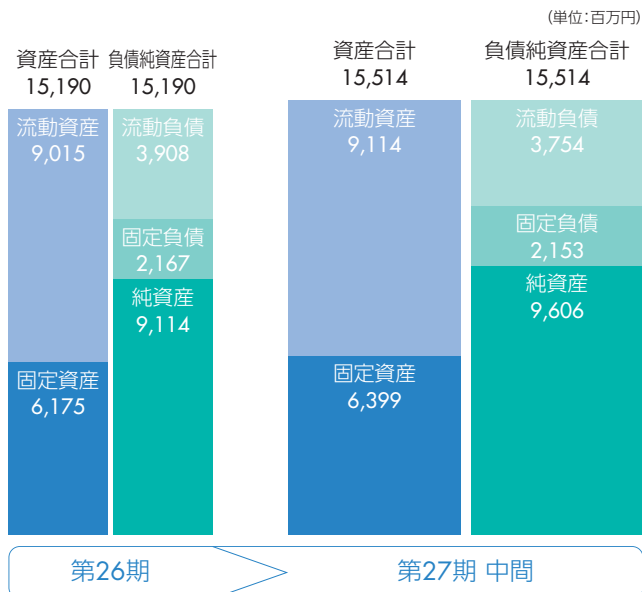


株式会社SkeedとAmazonコンサルティングパートナーである当社は、同社の大容量高速ファイル転送ソフトウェア「Silver Bullet」と当社のオンラインストレージサービス「インテリジェントフォルダ(Intelligent Folder)」やアマゾン ウェブ サービス(AWS)をベースとしたクラウド基盤構築支援サービス「クレアージュ(Creage)」を組合わせた「高速クラウド構築支援サービス」を実現するべく、戦略的技術提携を行いました。

同社は急速に拡大するクラウドコンピューティング市場に対して、データ通信の大容量化、ユビキタス化、グローバル化といったニーズを先取りしたデータ通信基盤を提供しています。今回の戦略的技術提携を通じて、両社の顧客基盤、事業基盤を最大限に活用したビジネスの拡大を図るとともに、ファイル共有、データ連携および高速データ通信を軸としたソリューションメニューの充実を目指します。

連結財務状況

貸借対照表の概要



流動資産

98百万円
(前年度末比)

未収入金が50百万円減少したものの、現金および預金が1億43百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて98百万円増加し、91億14百万円となりました。

固定資産

2億24百万円
(前年度末比)

のれんが34百万円減少したものの、投資有価証券が2億61百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて2億24百万円増加し、63億99百万円となりました。

流動負債

1億54百万円
(前年度末比)

買掛金が78百万円、未払法人税等が68百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べて1億54百万円減少し、37億54百万円となりました。

固定負債

14百万円
(前年度末比)

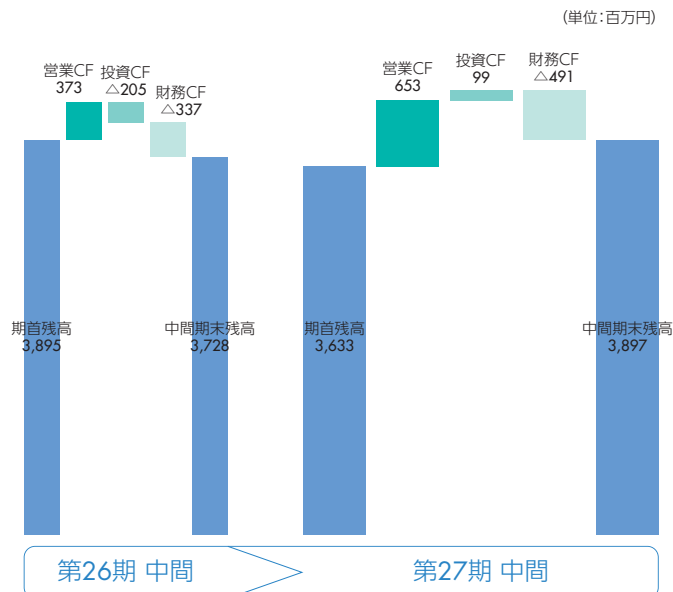
退職給付に係る負債が1億7百万円増加したものの、長期借入金が1億21百万円減少したことにより、前連結会計年度末に比べて14百万円減少し、21億53百万円となりました。

純資産合計

4億92百万円
(前年度末比)

自己株式のマイナスが1億79百万円増加したものの、その他有価証券評価差額金が1億2百万円、利益剰余金が5億59百万円増加したことにより、前連結会計年度末に比べて4億92百万円増加し、96億6百万円となりました。

キャッシュ・フロー計算書の概要



営業活動によるキャッシュ・フロー

法人税等の支払額が4億93百万円、仕入債務の減少が78百万円あったものの、税金等調整前中間純利益が12億8百万円あったことにより、6億53百万円の収入(前年同期3億73百万円の収入)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

有価証券の取得による支出が9億36百万円、投資有価証券の取得による支出が7億18百万円あったものの、有価証券の売却による収入が9億32百万円、投資有価証券の売却による収入が6億69百万円、定期預金の払戻しによる収入が1億28百万円あったことにより、99百万円の収入(前年同期2億5百万円の支出)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払額が1億80百万円、自己株式の取得による支出が1億79百万円、長期借入金の返済による支出が1億23百万円あったことにより、4億91百万円の支出(前年同期3億37百万円の支出)となりました。



ホームページのご案内

最新のIR情報や
財務データ、決算関連資料を
掲載しております。
ぜひ、ご利用ください。

<http://www.cresco.co.jp/>

取締役



代表取締役会長
岩崎 俊雄 Toshio Iwasaki
1940年11月30日生



取締役副会長
水谷 浩二 Kohji Mizuya
1947年7月6日生



代表取締役社長
根元 浩幸 Hiroyuki Nemoto
1960年2月12日生



常務取締役
コーポレート管理本部長
丹羽 蔵王 Kurao Niwa
1955年11月13日生



常務取締役
事業統括本部長
山元 高司 Takashi Yamamoto
1960年10月11日生



取締役
財務経理部長
杉山 和男 Kazuo Sugiyama
1964年9月1日生



取締役
事業統括本部副本部長
富永 宏 Hiroshi Tominaga
1967年1月9日生



取締役
事業統括本部エンベデッドソリューション事業部長
菅原 千尋 Chihiro Sugawara
1958年9月27日生



取締役(非常勤)
クレスコ・イーソリューション(株) 代表取締役社長
谷口 義恵 Yoshie Taniguchi
1953年10月16日生



取締役(非常勤)
(株)クリエイティブジャパン 代表取締役社長
熊澤 修一 Shuuichi Kumazawa
1956年9月30日生

監査役

(注) 監査役臼井義真、監査役井手正介および監査役戸田秀明は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。



監査役
波多腰 茂 Shigeru Hatakoshi
1951年11月17日生

社外監査役
臼井 義真 Yoshimasa Usui
1949年2月11日生

社外監査役
井手 正介 Masasuke Ide
1942年6月28日生

社外監査役
戸田 秀明 Hideaki Toda
1934年8月15日生

1 株式会社クレスコ 本社
2 北海道開発センター

事業内容 ビジネス アプリ 基盤 構築 クラウド コンサル ティング 組み込み 近距離 無線 クラウド

連結子会社

3 クレスコ・イー・ソリューション株式会社

事業内容 ビジネス アプリ クラウド コンサル ティング

4 ワイヤレステクノロジー株式会社

事業内容 近距離 無線 近距離 無線

5 クレスコ・アイディー株式会社

事業内容 近距離 無線

6 株式会社アイオス 本社
7 関西営業所

事業内容 ビジネス アプリ 基盤 構築

8 クレスコ九州株式会社

事業内容 ビジネス アプリ

9 クレスコ北陸株式会社

事業内容 ビジネス アプリ

10 科礼斯軟件(上海)有限公司

事業内容 ビジネス アプリ

グループ各社の連携を密に、その総合力を発揮して、さらなるビジネスの拡大にチャレンジしてまいります。

11 株式会社シーズリー

事業内容 組み込み 制御

12 株式会社クリエイティブジャパン

事業内容 基盤 構築 ネット ワーク

関連会社

13 株式会社ウェイン

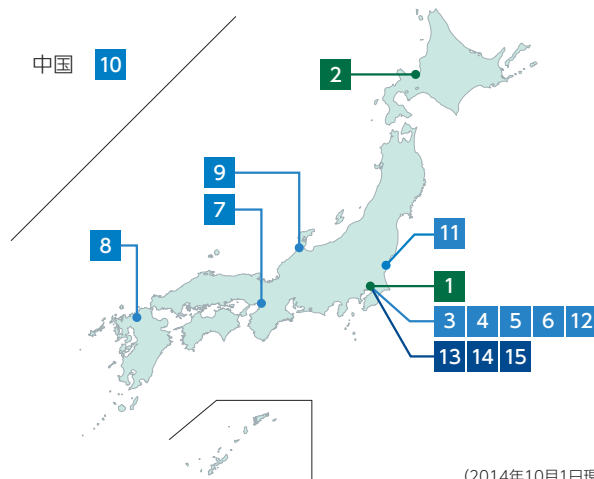
事業内容 ビジネス アプリ コンサル ティング

14 ビュルガーコンサルティング株式会社

事業内容 コンサル ティング

15 株式会社エル・ティー・エス

事業内容 コンサル ティング



(2014年10月1日現在)

株式の状況

(2014年9月30日現在)

発行可能株式総数	34,000,000株
発行済株式の総数	10,491,332株
	(自己株式1,508,668株を除く)
株主数	2,649名

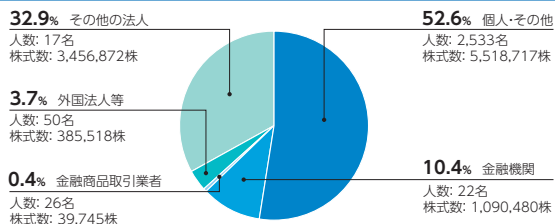
大株主

(2014年9月30日現在)

株主名	持株数(百株)	議決権比率(%)
有限会社イワサキコーポレーション	34,396	32.94
浦崎 雅博	11,818	11.31
佐藤 和弘	5,696	5.45
クレスコ従業員持株会	5,470	5.23
田島 裕之	4,448	4.26
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,826	3.66
岩崎 俊雄	3,008	2.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(リート信託口)	1,352	1.29
波多腰 茂	1,258	1.20
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	772	0.73

所有者別株式分布状況(自社保有分を除く)

(2014年9月30日現在)



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
配当金受領株主確定日	中間:9月30日 期末:3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 (特別口座の口座管理機関)	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 ☎ 0120-232-711 (通話料無料) 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	日本経済新聞社に公告いたします。

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



～ システムで未来を創る ～

会社概要

商号	株式会社クレスコ
設立	1988年4月
資本金	25億1,487万5,803円
従業員数	952名
所在地	<p>■ 本社 〒108-6026 東京都港区港南2-15-1 品川インターシティA棟25階～27階 TEL: 03-5769-8011 FAX: 03-5769-8019</p> <p>■ 北海道開発センター 〒060-0003 北海道札幌市中央区北3条西3-1 札幌北三条ビル2階、11階 TEL: 011-200-5550 FAX: 011-200-5665</p>
事業内容	<p>情報処理システムに関する</p> <p>■ コンサルティングおよびソリューションサービス業務</p> <p>■ 設計、開発業務</p> <p>■ 運用管理、保守業務</p> <p>■ 調査、分析、評価および技術支援業務</p>

(2014年10月1日現在)

IRのお問合せ 経営企画室

Mail: ir@cresco.co.jp
TEL: 03-5769-8058

